

親として知っておきたいネットの常識

一般社団法人セーフティネット総合研究所
専務理事 博士(学術) 南澤 信之

IT は、いつでも、どこでも、誰もが、使える便利な道具としての特徴があります。私たち大人は、想定する特定の相手とつながるための道具として利用しています。ところが、トラブルに巻き込まれる子どもたちの特徴は、インターネット上にある特定のサイトに入ることを目的としており、誰とつながっているか・・・という意識が全くないのです。ですから、同じ物であっても、私たち大人とそういった子どもたちとは、位置づけや使い方が全く違うのです。

誰でも使えるということは、私たちや私たちの子どもが使えるのと同様に、最初から悪だくみを企てている人ですら使えてしまうということです。ネット社会は、誰も助けてくれません。自分自身が自身を守りながら生きていかななくてはならないのです。

守るということ。自分自身を守るためには、少なくとも自分の周りの人、自分の知り合い全てを守る気持ちがなければ、自分を守ることなどできません。安易に他人の事をネット上に書けば、結果的に自分にまわってきます。ネット社会ほどプライバシーのない社会はありません。安易な一言で自分が窮地に陥ることのないようにしなくてはなりません。

KY 場の空気が読めない。人の事がわからない。・・・いつでも、どこでも使えるということは、自分の都合のよい時に自分の都合のよいように使えます。このような使い方をしていれば、いつしか自己中心的な考えになってしまいます。2007年の新語流行語大賞の「KY」は偶然ではありません。インターネットや携帯の普及により、いつしか自分が気付かないうちに自己中心的となり、自身が置かれている立ち位置を見失い、周りの人の事が見えなくなってしまったのです。場の空気が読めない・・・というKYは、人間として生きていく上で、とても悲しいことです。かわいい子どもには、旅をさせろ、とは・・・

安易な気持ちで書き込んでトラブルに巻き込まれている人が沢山います。インターネットは、時間も場所も人の眼も気にせず、匿名でもアクセスできます。一時的な感情や安易な気持ちで何気なく書いた一言で、人生が滅茶苦茶になった人も沢山います。このくらいは大丈夫、名前もわからないし、人を傷つけるつもりは全くないし・・・しかし、それを見た人の感情でその情報は独り歩きしてしまいます。

消すということはできないのです。いくら自分で書いたブログであり、ホームページであっても、一度書き込んだ情報は全世界共有のものとなり、自分の手を離れて独り歩きしてしまうのです。一度書いたものは、消すことがほぼ不可能なのです。書き込みに対して、たとえ法的制裁が科せられなくとも、あとから社会的な制裁が待っています。

法的対応には限界があります。現在「プロバイダー責任制限法」や「特定電気通信役務提供者の損害賠償責任の制限及び発信者情報の開示に関する法律」等がありますが限界があります。法的対応は、あくまでも内容的な制限や国内に情報が入っているサーバーに限られます。多くの場合、海外にも同じサーバーを置いているため検索結果に表示されます。一生涯にわたり、その情報と向き合うしかありません。

加害者になってはなりません。被害者は本当に辛い思いを生涯にわたり背負うことになり、やりきれません。一方、安易な気持ちで書き込んだ加害者は、謝っても済まないのです。生涯にわたりその十字

架を背負う必要があります。たとえ法的な制裁が無かったとしても、日常生活において窮地に陥ってしまいます。県内の事案でも、一家転住を余儀なくされた事例が複数あります。また、親どうしの訴訟問題に発展したケースもここ数年沢山あります。決して子どもを加害者にしてはなりません。

親には、第一次養育義務があります。子どもが成人するまで正常に成長・発達を促す義務があります。

親はどんなことがあっても、子どもを守ることが第一義にかけられています。それは、被害から守るだけでなく、加害者にしてもならないのです。最終的な責任は保護者にかかってくるのです。

スマホは携帯とは全く違います。ショップで購入したまま使用するとはできません。安全に利用するための様々な設定が必要です。位置情報や無料のアプリには特に注意が必要です。最近、スマホによる事件が県内でも多発しております。

インターネットに接続可能なi-pod等の音楽プレーヤーやゲーム機もスマホと同じ機能を持っています。最近、これらの端末からのインターネット利用によるトラブルが急増しています。単なる音楽プレーヤーとかゲーム機と思わず、スマホと同様に子どもにどのように与えるかをしっかり考える必要があります。

医学的にも、ケータイ・スマホの電磁波による体への影響が心配されている中、最近では、パソコンも含め画面のブルーライトによる刺激で精神的に過敏になったり、睡眠障害を起こしたりなど、体への影響が言われています。また、脳科学の分野でも、実際の会話ではなくメールやインターネットに参加していると、感情を司る部位だけが活性化し、その他の部位は沈静化してしまうという実験結果も出ています。これは、ネット上では過激なやり取りや感情が高ぶる、思い込みが激しくなるという現象を裏付けております。本来ネットを利用するには、利用する人の判断力・自制力・責任力そして想像力が必要であることは言うまでもありませんが、その必要とされる力を封印してしまいます。私たち大人は、「経験」という大きな財産から、危険回避することができますが、子どもたちにはその財産がないのです。自分がしたことがどういう影響を持つのか、今後どうなってしまうのかということを考える術がないのです。

IT インターネット・携帯・スマホに関する事件が県内でも多発しています。今身近で起こっているのです。人ごとではありません。自分には関係ない、自分の子どもは大丈夫、と言ってられない状況なのです。いつ自分の身に降りかかってくるかわかりません。知らないでは済まされないのです。

親として、身近な大人として今できることは、インターネットや携帯の操作の仕方ではなく、私たち大人がこれまで私たちの親の世代から受け継いできた「生きる」ということ、「生き方」についての教えを子どもたちに伝えていくことです。

聴くということ。まさにコミュニケーションそのものです。この「聴」という漢字は、「耳」編に「十」分な「目」と「心」から成っています。人と話すということは、昔から顔と顔を見合わせて、話ししましょう、と言われてきました。言葉や文字だけでなく、十分に目と心を使い、自身の五感で相手の気持ちを読み取ることです。いわば心のキャッチボールなのです。普段の生活の中から、親として、身近な大人として、もっともっと元気を出して子どもと向き合い、この聴くということを子どもに意識させるよう会話をしてください。

相談すること。特にネットに関する問題は、どの家庭でも起こりうることです。また、自分で何とか解決しようとしてもなかなか難しいものです。どんな些細なことでも学校に相談しましょう。